



P2 / 会長ご挨拶

WASLIの最新活動について
会長 デブラ・ラッセルより



P4 / 記事

国際手話通訳者養成講座inマカオ
宮澤典子より報告



P5 / インタビュー

マレーシアの手話通訳者リーダー
ルーシー・リムに聞く



P7 / 行事予定

下記のイベントをチェックしてね！
ろうコミュニティ
手話研究会
翻訳通訳研究会

WASLI newsletter.

no. 6 / 2018



コロンビアより

WASLI会長デブラ・ラッセルならびに副会長ジョゼ・エドニルセン・ソウサ・ジュニアは先日コロンビアを訪問してきました。そこで、様々な会議に出席し、手話通訳者の共同活動や、コロンビア全国ろう連盟との連携活動に対する支援を行いました。

コロンビア・コープ大学UCCが主催する第一回国際インクルージョン・シンポジウムが5月3日から4日までの二日間にバランカベルメハ市内で開催されました。東の全地域から180人を超える参加者がありました。この大会でWASLIのデブラ会長は、自身の経験に基づいて、手話通訳者介在のろう児教育に関する研究を発表し、教育現場における手話通訳の導入が如何に重要であるのかを示す基礎材料となりました。

一方、WASLI副会長ジョゼ・エドニルセン・ソウサ・ジュニアは、優れた手話放送通訳をテーマに論文を発表しました。

大会のクライマックスは5月5日(土)にフェイスブック・ライブ及びYouTubeライブを活用したライブ対談でした。

WASLIの代表2名とも参加しました。

この大会はANISCOL前代表及びWASLI前副会長ジョゼ・ルイス・ブリエバ・パディラ氏が企画したものです。

対談のテーマは、手話を用いる直接教育法の意義や、手話も教えられる手話通訳者がインクルージョン教育に於ける役割などでした。コロンビア手話通訳者連盟、通称FENILCの新しい理事会によるプレゼンで、この大会は幕を閉じました。

会長ご挨拶

デブラ・ラッセル

親愛なる会員ならびWASLIサポーターの皆さん、この数週間、あなた方の理事たちは我々の目標に向けて頑張りました。その目標の一つとしては、地域レベルの手話講習会を開講することです。以下はあなた方のボランティア理事たちが行ってきた活動の概要です。

ナイジェル・ハワード、川上恵及びスーザン・エマーソンは5月の中旬にWFDアジア地域事務局の協力を得て、国際手話通訳ワークショップを実施しました。

我々のラテンアメリカ代表イサベル・レイは、以前からラテンアメリカ及びカリブ地域の通訳者協会と取り組んでいます。今回はウルグアイ共和国を訪問し、現地で行っている手話通訳の専門化活動に対し、WASLIとしては是非支援を提供したいと、連携の話を持ち掛けました。

ジョゼ・エドニルセンとデブラは5月3日と5日の二日間にコロンビアでプレゼンを行い、教育現場やテレビ番組に於ける手話通訳の必要性を呼び掛けました。ポゴタでは、デブラは国立ろう者教育機関INSORや全国ろう協会FENESCOL、セルヒオ・アルボレダ大学などへ出向き、様々なろうコミュニティと交流することができました。そこで、WASLIの活動はもちろん、WFDとの連携活動についても大いに宣伝してきました。さらに、コロンビアで新たな全国組織FENILCが設立されることに、コロンビアの皆さんにお喜び申し上げます。国会員としてWASLIへの加入を楽しみにしています。最後に、暖かく迎えてくれて、その上、このような素晴らしいイベントを開催してくれたことにお礼申し上げます。

スーザン・エマーソン及びアンジェラ・マレイは、オセアニア地域総会の企画グループへの支援でたいへん忙しく働いています。2018年8月に開催されるこの総会で、WASLIとして対面理事会を行う予定です。

リズ・スコット・ギブソンは4月にサウジアラビア王国の手話通訳者たちに会ってきました。目的は効率よく手話通訳協会を設立できるように、支援及びアイデアを提供したいと伝えるためです。一方、デブラはろう通訳アドバイザーのナイジェル・ハワードと一緒にシャルジャに行ってきました。健康診断事業に於ける手話通訳の役割について、プレゼンを行い、医療場面においてろう通訳者の重要な役割を主張しました。

もうすぐWASLI2019の開催です。参加予定の方は、パリへいらっしゃい。参加できない方は、他国からの代表者を支援して、寄付をご検討ください。この大会に参加するのに必要な登録費や旅費、宿泊費などにお困りの会員がたくさんいます。私とリズ・スコット・ギブソンは、パリに出席させたい北朝鮮の手話通訳者2名のために基金を立ち上げる予定です。

皆さんもぜひ仲間と一緒に来てください。またはアフリカやラテンアメリカならびカリブ、アジアなどの代表が参加できるように寄付してください。友人10人で計画してください。基金の大小は問いません。いずれも力になります。RIDIにはたくさんの支部があります。各支部が各国の代表1名を支援すると想像してみてください。グアテマラ共和国やブラジル、サウジアラビア王国、アンゴラ、タンザニア、南アフリカ、スーダン、インド、パキスタンなどの国々の代表が世界会議に集まることができたら、なんと素晴らしいことでしょうか。募金のお陰で人生が変わったという参加者は大勢います。それは、大会に参加した後、それぞれの国の手話通訳者養成事業や手話学習プログラムに携わるようになったからです。

次の12ヶ月間、大会の準備に取り組みます。時間のある方やお手伝いできる方は、大会責任者であるミシェル・アシュレーにご連絡ください。英語版と国際手話版の論文募集要項はすでに掲載しています。8月にプログラムの詳細を決定します。会場となるポール・デカルト大学は地下鉄駅の近くに位置します。パリ周辺でご自身の予算に合う宿泊施設を探すといいです。開催日は2019年7月16日から19日までです。

FITとの提携事業に進展がありました。我々の役割は、手話通訳者の行動規範を作成したいという国のために、共通マニュアルを作成したり、難民コミュニティで活動する手話通訳者をサポートするための養成マニュアルを作成することです。我々の事業企画に協力し、尽力してくれたオーストリア出身のアレクサンドラ・ヤンシェルにお礼申し上げます。

我々のWFD-WASLI国際手話諮問委員会は、今年の1月に行動規範を完成した後、次の仕事として、通訳者認定制度の見直し及び問題解決プロセスの考案に取り組みます。

最後に、米国のスティーヴン・サレンシーがリードする国際手話翻訳ボランティアグループにお礼申し上げます。お陰様で、国際手話に翻訳された我々の資料は、幅広く読まれるようになりました。

理事会へのご意見やご感想はメールでお願いします。メールアドレスはpresident.wasli@gmail.comです。また、WASLIへの支援を続けてくれるボランティア手話通訳の皆さん、ありがとうございます。

ご質問やご意見があったら、いつでも私にメールしてください。
president.wasli@gmail.com.

WASLIのコロンビア訪問追記

ボゴタとブカラマンガで行った交流会について

5月2日にデブラはボゴタで政府関係者とたいへん重要な会議を行いました。

そこで、行政事業や、国立ろう研究所(INSOR)にも関わる教育政策などにおいて、ろう人口への配慮が確約されました。コロンビア手話通訳者協会(ANISCOL)の幹部たちや、INSORの所長マーセラ・キューデズ博士及びその顧問チームも出席しました。

ろう者向けのインクルーシブ教育という分野の発展が検討され、バイリンガル＝バイカルチャー教育にコロンビア手話を媒介させるための新たな構築も考慮されました。

手話通訳の評価及び認定プロセスも検討され、新たな同意書を結ぶことにもなりました。同意書とは、WASLI-ANISCOL-INSORの三者が、2019年に導入予定の試験に対して、その見直しや推進、サポートを提供することです。この試験は全てのコロンビア手話通訳者が対象です。実は、ろう幹部と手話通訳者全体の事前内部会談で、この同意書はすでに確約されました。

WASLIの名前を世界に知らせる事業になりますね。

その後、コロンビアろう連盟(FENASCOL)も訪問しました。

そこには、「セントロ・デ・リレボ」というビデオ・リレー・サービスのプロジェクトがあり、連盟の職員たちとの会話が、コロンビア各地でビデオコールの業務をする通訳者によるライブビデオによって配信されて行われました。

この日の最後のプログラムとして、セルヒオ・アルボレダ大学で手話通訳とろう者が合わせて約50名の出席者の前で、あるレクチャーが行われました。

大学には、教育学の修士号を取得しようとしているろうの大学院生がいます。レクチャーの焦点は手話通訳の倫理及び業務上のろうコミュニティに対する敬意の払い方などについて語られました。また、WASLIが世界各地の手話通訳事業において、どれだけの貢献をしてきたのか、にも言及されました。

5月5日にブカラマンガでジョゼ・エドニルセンとジョゼ・ルイス・ブレイバは地元のろう協会ASOISANのろうコミュニティ及び手話通訳の方々と交流会を行いました。

「WASLIにとって、会員の皆さんと触れ合うことがとても大切です。ですので、コロンビアの仲間から直接にお話を聞いたり、皆さんの経験を分かち合ったりして、その上、サポートすることができて、たいへん光栄に思います。」

とジョゼ・エドニルセンが出席者に伝えました。



ショート・ニュース

FIT:

2017年5月24日に国際連合総会が9月30日を国際翻訳デー(ITD)に定め、今後、国連ネットワークの全ての関係国は、この日に一斉に行事を実施する予定です(決議 A/RES/71/288)。

国連の制定した2019年の国際先住民族言語年の共同実施に備えて、国際翻訳家連盟(FIT)評議会は、ITD2018のテーマを、「翻訳: 変わりゆく時代の文化遺産を再考する」と決めました。

FITコミュニティはわれわれのITD2018祝祭に参加するよう、国際コミュニティに向けて推進してくれています。

北アメリカ:

WASLI北アメリカはこの下半期はたいへん忙しく過ぎました。アメリカ・アルバカーキ市で2018年7月18日に開催のRID第4地域総会の中で予定されている対面式会議のために、何度も打ち合わせを行ったからです。殆どの団体の担当者がこれらの打ち合わせに出席しています。ダニエル・メイヤ、ガブリエール・マルティネス、カルメロ・ファル及びハワード・A・ロセンブラムにお礼申し上げます。

WASLI理事会議

次のWASLI対面式理事会は、8月15日から16日までの予定です。場所はフィジー共和国です。理事会の後、WASLIオセアニア総会に出席します。

メキシコ:

5月12日にWASLI副会長ジョゼ・エドニルセン・ソウサ・ジュニアは、ビデオ会議である第6回全国バイリンガル教育運動会議(MEBISOR)でレクチャーを行いました。この運動は、様々な地域のろう協会やろうリーダーから結成されたものです。この活動の狙いは、改制の要請に向けて、メキシコ共和国の複雑な政治体制にも対応できるようろうリーダーを育てることです。



報告者：長山 綾

5月11日から13日までの3日間、WFD アジアならびに WASLI Asia 主催の国際手話通訳者養成講座がマカオにて開催されました。アジアで国際手話養成講座が開催されることは初めてのことで、10か国、29人のメンバーは各国で手話通訳者をしている方、地域で手話通訳者の養成や聴覚障害者への情報提供の業務を行っている方など様々でした。

講師は WASLI 理事でろうアドバイザーの Nigel Howard さん、同じく WASLI 理事で手話通訳者の Susan Emerson さん、全米手話通訳者協会(RID)の資格を取得され、現在は沖縄の情報提供施設に勤めている川上恵さんの3名が、理論的、そしてシンプルに文化や風習、背景が様々な受講生一人ひとりにわかりやすく指導してくださいました。

研修の中で、ディスカッションやワークショップ、そして実際に通訳場面にチャレンジする中で、手話通訳者としての理念や倫理を考え、地域の手話から文化の違いを理解し、各国や個人を尊重していくことが国際手話通訳者にとって大切なことだということを教わりました。

12日に開催されたオープニングセレモニーでは、WFD アジア地域事務局長の嶋本理事の挨拶、WFD コリン理事長、WASLI デブラ会長、WASLI アジア代表梅本理事からのビデオメッセージ、そしてマカオろう協会ロウ会長から歓迎の言葉があり

ました。そのあと、参加各国がステージに上がり記念撮影をしました。ステージの壁にはアジア諸国を中心とした世界地図が描かれており、私たちの心は一つなんだと確信しました。

今回の研修では仲間づくりもメインテーマとなっていたと感じています。文化や習慣の違いを超えて「国際手話」という共通のキーワードの中で仲間となり、友達となり、これからの国際手話の発展に寄与していく、その基盤づくりも大きな目的であったと思います。私たちは休憩時間も講座終了後もお互いの仕事の事、通訳者養成の事、文化の違い、これからの夢をたくさん語り合いました。今回築かれた関係は私たち一人ひとりにとってこれから成長していくための大きなカギとなりました。

このような素晴らしい講座を受講させて頂いたこと、そして充実した講座の成功となったのもひとえに WFD、WASLI、WASLI アジア、講師の皆さん、そして準備に尽力されたマカオろう協会の皆さんのおかげです。心から感謝いたします。これからもこの講座が継続し、たくさんの仲間と共に国際手話でのコミュニケーションが広がること、国際手話通訳者として活躍する人が増えることを切実に願っております。



手話アバターとは？

WFD 及び WASLI は共同声明を結び、公的機関が運用する音声または初期で表現されたコンテンツへのアクセス方法の一つとして、手話アバターを使用する場面を決定する方法・手段についての懸念を表明しています。手話言語は、音声言語とは異なる複雑な構造を持った本格的な言語です。音声言語の単語と手話語彙を1対1対応させて正確に翻訳することは不可能です。どんな翻訳でも前後関係や文化規範を考慮する必要があるからです。人間による翻訳とアバターによるものの言語的な質は大いに異なるものであり、それが人間の手話話者の代用として手話アバターを利用することに対して WFD と WASLI が警告する利用です。テクノロジーが進歩し、手話アバターの使用が広がる可能性が高まっているとはいえ、これらコンピューターの生成物は訓練された有資格通訳者や翻訳者が持つ自然な品質とスキルに優るものではありません。

今のところ、機械翻訳は（音声・手話のどちらにしても）ライブ通訳する人間の能力を模倣するほどにはなっていません。コンピューターによる機械翻訳は、人間の手話通訳者が行うライブの手話通訳ほどの文化的に適切な通訳を行うことはできません。

WFD と WASLI の共同声明に関する詳しい背景と手話アバターの適切な使用場面の決定についての意見については、下記の HP をご参照ください。

<https://wfdeaf.org/news/resources/wfd-wasli-statement-use-signing-avatars/>

ルーシー・リムさんへのインタビュー

INTERVIEW

リムさんはマレーシアの手話通訳者でありリーダーの一人である

1. 手話通訳活動及びろう者との共同作業の旅について読者に話して下さってありがとうございます。どのように始められたのですか？

ルーシー: マレーシア国家試験の結果が発表されるのを待つ間に、セランゴールろう学校でボランティアしてほしいと姉に頼まれました。教会ではろう学校の設立者タンヤブ氏から更なるボランティアの要請がありました。3か月ボランティアをしていたので、Aレベルをすることにしました。大学時代にYMCAで週1回ボランティアすることにしていました。学校へ行ったことがない大人たちと仕事をしていました。それを2年間やってから、Aレベル終了後フルタイムで働き始めました。そのとき私の両親が他界し、学業を続けるための財政的援助が受けられなくなりました。それで、YMCAろう自立センターで働き始めました。私たちの仕事は共同体とろう社会への教育に焦点を当てたものでした。ろうの若者、親、10代の人々、子供たちへの支援グループが私たちにはありました。私はこの役割で22年間もYMCAで働いてきて、ろう社会が徐々に力をつけて成長してきたのを見て誇らしく思います。

2. YMCAでの仕事はあなたにとって素晴らしい機会だったそうですね、またそこで私たちは出会ったのですね。

ルーシー: 本当にそうですね! YMCAで働くことで私の生涯にわたる仕事が形作られていきましたし、仕事で旅行することができました。毎年YMCAのアジア太平洋地域(マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、香港、マカオ、日本、韓国、オーストラリア、台湾)国際ろう若者キャンプ(HHCAMP)を組織します。参加者は主催者が120人から150人とYMCAのスタッフやリーダーたちです。キャンプはこれらの国々の持ち回りで行います。キャンプはろうの若者たちがお互いにふれあい、他の国々の手話を学び、通訳者にとっても国際手話を磨く機会となるのです。またYMCA指導者の何人かはろう者の教員ですから、教育、雇用などの知識を学びあいます。このプログラムは私の知識を増やし、私の通訳技術の基礎となりました。

3. マレーシアとアジア地域での通訳者及びろう社会の発展に重要な役割を果たしてこられました。それについてお話をいただけますか？

ルーシー: ろう社会や通訳者の共同体について知識を共有し、獲得することはいつでも大好きです。カナダ、アルバータ州エドモントンのグラント・マキュアン大学の通訳者課程を卒業してから、私は当地へ新しく学んだ知識と経験を携えて帰ってきました。私は全力を尽くして私の知識と技術を使いました。私の行ったことのいくつかは以下のとおりです:

1. マレーシア、フィリピン、マカオ、香港、シンガポールでの通訳者、技術、役割についてのワークショップやトレーニング。
2. マレーシア手話辞典のマラヤ大学プロジェクトのメンバーになる。スポンサーを募る中心、そして調査チームの通訳者
3. プロジェクトの一環として我々は子供たちのための民話のビデオのシリーズを作った。
4. 以下の教材を作成し、スポンサーとなった:
 - a) ろう者的手話
 - b) 子供たちのための手話

- c) 性についての手話
- d) 失聴の子供たちの養育についてのガイド(編著者)
- e) ろう文化の理解: マレーシアの視点(編者・コーディネーター)
- f) 障害者のための雇用と経済(寄稿者)

5. マレーシア航空と共同で安全のためのビデオを作成し、初めて、訓練を受けたモデルではなくろう者の手話を採用した。
 6. 私の職歴でのハイライトであり大きな貢献: 手話学生とやる気のある通訳者が練習するための手話ラボ(マレーシア初)の設立(私の訓練中にアルバータで見たようなもの)
4. 社会の一員としてまた通訳者として大いに貢献してこられました。手話通訳者のことをお考えになると、通訳者としてどんな要素が重要でしょうか？

ルーシー: 態度、正しい態度です(支配的だったりすべてを知っているようなものではありません)。技術、経験、他の通訳者たちとの連携を取り、ろう者について豊かな知識を獲得します。ろう社会、そして医療、教育、雇用、家族状況などについての知識がないなら、「偉大でバランスのとれた」通訳者にはなれません。他のこと:

- a) 情熱—あなたがやると決めたことにおいてなんでも立派に、そして情熱をもってやり遂げなさい。
- b) ろうの先生を持ちなさい—手話やろう社会について深い洞察力を持っているから
- c) 手話通訳についてのさらなる手話言語学を学ぶ
- d) 様々な場面でよい通訳ができるように様々な場面に身をさらす
- e) ろう者について判断するよりはろう者を尊重しろう者の良き仲間となりなさい。
- f) 優れた対人技術を身につけなさい。
- g) 通訳をする時間のほかに、他の通訳者と絆を深め、触れ合い、結婚式に出席するとか、ハイキングに行くとか、パーティーに参加するとか交流を深めなさい。
- h) 十分体力をつける。通訳ができるだけの体力をつけるようにジムに行きましょう。
- i) 言語を愛しなさい—通訳はまた様々な言語における用語や語の使用についてなのです。

5. 素晴らしい! それは素晴らしいヒントです、ありがとうございます。現在のあなたの地域のろう者及び通訳者の社会でどんなことがよい変化だと見えますか？

ルーシー: ろう者はより発言するようになりましたし、通訳者がどんなイベントにも用意されることを知っています。以前はろう者が自分で通訳者を連れてこなければならいと思っていました。しかし、今やろう者の多くが通訳者を雇用するように要求するようになってきました。ワークショップや講演、イベントにです。共同体により大きな目覚めが起きています—以前はろう者は障害者やろう者関連の講演やワークショップのみ出席していました。しかし今やろう者は経済、多層経営の講演にも参加するようになってきました。そしてより多くのろう学生が大学の高等教育に参加しています。

6. あなたの地域ではこれからさらに何が必要になりますか？

ルーシー: 将来職業とできるように現在は手話通訳者に十分な仕事



がありません。より多くの通訳者養成プログラムが必要です。通訳だけの給料ではやっていけません。学生を通訳者として育成するためにより多くの大学での課程を設立することが必要です。この分野での認識もより多く必要です。最後に我々には2言語以上で流ちょうな通訳者が不足しています。

7. 新人の通訳者に何かアドバイスはありますか？

ルーシー：とりわけ推進役としては多くの課題に直面するでしょう。でもあきらめないで。技術と知識を追求し続けてください。自国の通訳者だけでなく他国の通訳者ともつながり続けてください。自国で一番の通訳者になりなさい。論文を書き会議に出席する時間を取りなさい。課題に必要な準備をし、もし自信がなければろう者の先生と話すかろう者の友人の意見を聞きなさい。マレーシアでは幸運にもクーン・ウェイ(ろう言語学者、頼りになる人、そしてシンガポールにいる間はジェシカマク(強力なろう協力者)に意見や洞察をいただいている。

8. 現在は通訳はやって見えませんか。でも新しい役割でろう社会に関わる方法を見つけられたようですね。それをお話いただけますか？

ルーシー：YMCA のろう共同体での仕事の経験をシンガポールがん協会に伝えています。そこで私はフルタイムで働いています。シンガポールへ引っ越したとき、私がしようと申し出た最初のことは講習や支援グループのために組織した数多くのがんワークショップでろう者のために通訳することでした。シンガポールのろう者とは連絡がありましたし、何とかろう者に伝えることができました。そして約10名のろう者が私たちのワークショップに参加しています。私はエブリンやクローディンのような地元の通訳者とともに通訳をしています。がんとともに生きるろう者を見つけて援助を申し出ることもできました。我々の団体のクリニックは無料のポップ・スミア・スクリーニングを提供しているのでろう女性は予約をし、彼らが看護師や医師と面接するときに通訳をしています。ろう女性が一人土曜の山歩会に参加してくれています。そして今支援グループの聴者の何人かが手話を学んでいるので基本的な手話で同年代間の支援ができます。できる限り多くそしてできる場所ならどこでも、共同体での無料の通訳をしています—選挙演説会での通訳、野外でのレクリエーション活動、ブータンへの旅までも！そして時にはマレーシアのような高等教育の学生のために、シンガポールの大学のいくつかは通訳者の謝礼が支払えないので私がその一部をしています—しないと手話を忘れてしまいます！

9. 最後に何か一言お願いします。

ルーシー：心を広く持ち学び続けてください。あなたが出会う通訳者は誰でも何か教えてくれます。やることに情熱をもって、通訳をプロの仕事と扱ってください！

IS通訳者コーディネーター

WASLIからご挨拶です

私の名前はスティーブン・サレンシーです。最近資格を得た国際手話通訳者です。国際通訳者がボランティアでWASLI文書を国際手話に翻訳するのをコーディネートしてWASLI理事会を支援することを申し出ました。

この役割で、通訳者たちがすべてのWASLI文書をすべてのユーザーが使えるようにするのに必要なものをすべて得る手助けをしたいのです。資格のある会員の皆さんがこの翻訳チームに加わってくださるのをお待ちしております。ボランティアは必要なボランティアのベースで文書の翻訳をペアまたはグループでします。

ボランティア可能な方のリストに加わりませんか？

翻訳の必要ができたリストに載った通訳者たちは小さなチームで翻訳ができるか聞かれます。

このeメールに「イエス」ということはこの翻訳の仕事を直ちに

受けることを意味しません。翻訳が科せられるときはいつも聞かれます。

よければ、資格のあるろう通訳者がスクリーンを見ながら国際手話の専門家として翻訳をしてくれることです。しかし、資格のある聴者の通訳者が翻訳チームの活動的なメンバーとして働いてくださることも必要です。

もしボランティアの通訳者たちのリストに加わりたいとお考えなら、

私にすぐ連絡してください。

ご協力ありがとうございます。素晴らしい日をお過ごしください！



HONOURING THE PAST
TREASURING THE PRESENT
SHAPING THE FUTURE
過去に学び 現在を尊び 未来を形作る

PARIS, FRANCE

15-19 JULY 2019

2019年7月15日—19日フランスパリ大会

<https://wasliparis2019.wordpress.com>

国際ろう週間

2018年9月23日—30日

手話言語の国際デー(IDSL)と国際ろう者週間(IWDeaf)で共有されるテーマは、「手話があれば、皆が含まれる！」です。

IDSLは国連総会で2018年をはじめとして毎年9月23日に祝われることが採択されました。

世界中のろう者がこのとき一堂に会し、手話の地位とろう者の権利を推進するのです。

前進するためにWFD(世界ろう連盟)が先頭に立ってIDSLとIWDeafこの週のある一日に推進するのです。

インクルージョンと社会への平等な参加は手話が手に入り、尊重され支援されることが必要ですが、これらのすべては国連が確立した維持可能な発展のゴールを達成することが必要です。

キャンペーン キーメッセージ

核となる原則

音声言語と同様に
手話言語の認識に
障害権利条約の原則を
反映させる

届く

手話の地位とろう者の
言語的人権を推進するために
合法的に義務を果たすために
できる限り多くの政府へ届き
影響を与える

促進する

ろう者が人権を
実現するために
必要不可欠な前提として
手話を推進する

理解すること

ろう社会とともに仕事するときは
「私たち抜きで私たちのことを
決めないで」の原則が考慮され、
浸透されなければならない
ことを強調する



International Week
of the Deaf

早期のアクセス

手話での質の高い教育を
可能にするを含め、
手話及び手話でのサービスへの
早期のアクセスを強調することは
ろう者が成長し発展するうえで
不可欠であり、国際的に合意された
発展のゴールを達成するのに
重要である

重点

手話は完全なる自然言語であり、
音声言語とは構造的に違い、
両者は両立することを強調する

言語の多様性

多言語主義として
また世界中の言語や文化の
多様性を推進し、保護し、
保存する手段として
手話やろう文化を推進する

特有の視点

障害の視点と言語的
少数派であることの
両方を持つ特有の存在
としてろう者を推進する

行事

FIJI フィジー

WASLI Oceania Conference
Nadi ナンディ **WASLIオセアニア会議**

2018年8月17日-19日

Email: autoceania.wasli@gmail.com

BRAZIL ブラジル

6th National Congress of
Research on Sign Language
Interpreting **手話通訳の第6回全国調査会議**
Florianópolis フロリアノーポリス

2018年10月1日-5日

website
: <http://www.congressotils.com.br>

CROATIA クロアチア
EFSLI Conference **EFSLI 会議**
Dubrovnik ツブロブニク
2018年9月14日-16日
Website : <http://efsl.org/2018>

COLOMBIA コロンビア
2nd National Meeting of
Colombian Sign Language
Interpreters (Colombia)
第2回全国コロンビア手話通訳者会議(コロンビア)
Pasto パスト
2018年10月9日-11日
Website : <http://fenilc.com/eventos/>

ICELAND アイスランド
9th International Deaf Academics
and Researchers Conference

第9回国際ろう者学及び研究者会議
Reykjavik **レイキャビク**
2019年5月11日-13日
Website: <http://www.dac2019.com>

FRANCE フランス
Conference CODA 2019
2019年CODA会議
Paris **パリ**
2019年7月11日-14日
Website : <http://coda-france.org/conference-coda-2019>

WASLI Conference **WASLI大会**
Paris **パリ**
2019年7月17日-20日
Website : www.wasli.org

XVIII World Congress of WFD
WFD第18回世界会議 **パリ**
Paris **パリ**
2019年7月23日-27日
Website: www.paris-wfd2019.org

GERMANY ドイツ
TISLR13 - Conference of
Theoretical Issues in Sign
Language Research
TISLR13 **一手法研究の理論的問題会議**
Hamburg **ハンブルグ**
2019年9月26日-28日
Website : <https://www.idgs.uni-hamburg.de/en/tislr2019.html>



このニュースレターに掲載の見解は必ずしも世界手話通訳者協会の見解を表しているものではありません。
編集者、WASLI執行部および外部からの協力者でWASLIニュースレターを作成しています。
WASLIは提供する情報が正当なものであることを保証します。投稿された文を編集する権利を有しています。
WASLIは掲載内容および意見の正しさは保証の責を追いません。掲載された情報の転用の際は引用をつけてください。
WASLIの公式画像を使用する際の許可申請、またメールアドレスの変更連絡は、secretary@wasli.orgまで。

WASLI理事

執行部:デブ・ラッセル(会長) ジョゼ・エドニルソン・ソウザ・ジュニア(副会長)
イザベル・ヘイヤリック(事務局長) スーザン・エマーソン(会計)

地域代表:アンジェラ・マレー(オーストラリア&オセアニア) ナターシャ・マリコ(アフリカ)
ウメトエツコ(アジア) デサンカ・ジジック(バルカン)
イザベル・レイ(ラテンアメリカおよびカリビアン) リズ・メンドーサ(北アメリカ)
イゴール・ボンダレンコとアンナ・コマロワ(コーサカス地方&中央アジア)
クリストファー・ストーン(ヨーロッパ) ヘルド・アルシュワイアー(アラブ地域連絡先)

WASLIボランティア

ろう通訳アドバイザー: ナイジェル・ハワード
WASLI会員管理担当: ヘザ・ショアズ
ソーシャルメディア担当: スザンヌ・エーリック
文書翻訳担当: 空席
国際手話翻訳コーディネーター: スティーブン・サレンシー
ウェブ担当: パトリック・ウィッチェ パトリック・ガラツ
会報編集: ジョゼ・エドニルソン・ソウザ・ジュニア
資金調達委員会: クリス・グルームス ビビ・ダラシー=モールド
教材ビデオ担当: シモーヌ・ショール

FOLLOW US



www.wasli.org

CONTACT US

WASLI Office
7/211 Wellington Street
Collingwood Victoria 3066 -
Australia



WASLI

World Association of
Sign Language Interpreters